

泉州国際市民マラソン 第7回大会 2000年(平成12年)

SENSHU INTERNATIONAL CITY MARATHON THE 7th CONVENTIONS



2月20日
天 候: 雨
気 温: 7℃
参加者数: 2,921人
完走者数: 2,286人
沿道人数: 47万人

第7回大会を迎え、全国各地から2900名を超える参加者が早春の泉州路を走り抜けた。大阪府下で唯一、公道を使用した市民によるフルマラソンだけに、申し込み者が多いことは人気の高さを如実に示している。今回のコースでは4回目であるが、フィニッシュ会場が下水処理場の奥まった地点にあり、コース変更の必要が話題となった。

泉州に根付いたマラソン大会のコースはほとんどが市街地を占めているため沿道の声援は途切れることはない。岸和田では“地車”を出して、笛や太鼓の鳴り物で選手を元気づけ、この“だんじり囃子”もおなじみとなり、選手にとって人気が高く、泉州国際市民マラソンならではの特別な風景である。

レースは、スタート後しばらくして小雨もあがり、コースコンディションも良くなり、積水化学の鎌込和成が、NTT関西の長谷川真也、藤阪和博両選手を振り切り、2時間15分24秒の好記録で優勝。女子は安部友恵(旭化成)が2時間29分09秒で快走、シモーネ・スタイクに6分以上の差をつけ、実力どおり優勝した。

女子の安部友恵は、前評判どおりの走りであったが、男女総合順位第6位のフィニッシュは過去に例のない快走で泉州路にきらびやかな華を咲かせた。

今回も、タレントの間寛平や山田敬蔵、高石ともやらが沿道の声援にこたえながら力走した。



開会式で力走を誓う招待選手たち
(19日、りんくう全日空ゲートタワーホテルで)



選手を元気づける恒例となっただんじり囃子

